

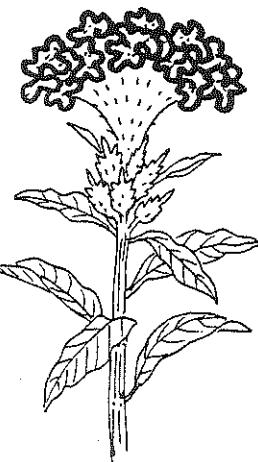


## 難治の機を

どんな仏さまでもすぐう」とのできないものが三人います。どんな悪いことをしても、少しも恥じることのない人——五逆の人、仏法をそしる人——謗法の人、教えを全然聞こうという気のない縁のない人——闡提。この三人のために、しかしその罪業をまるがまえにして、十劫（じつこう）というむかし「私の親」となってくださった如来さまがあります。並大抵のことではあります。阿弥陀如来さまは、それ以来、今日のいまにいたるまで、南無阿弥陀仏、ナモアミダブツと、呼び通しであります。この救われようのないもののために。

際限なく続く闇の夜道を、手さぐりで、あてどもなく歩む」の私。この私のために、光のほとけとなりてくださった如来さま。智慧のともしひをもつて、どこにいても照らし出してくださいます。闇は、光に照らされてはじめて、闇と気づかされ、闇が破られるのです。私の親となつてくださった如来さまは、十劫というむかしさから、南無阿弥陀仏といふお呼び声のお名号と際もない光の輪とで、何時でも呼んでいいよ、どいでも見ていいよと、今も、私を授取しおさめとつてくださいます。南無阿弥陀仏とは、そんな如来さまです。

弥陀成仏のこのかたは  
今に十劫をへたまえり  
法身の光輪きわもなく  
世の眞實を照らすなり

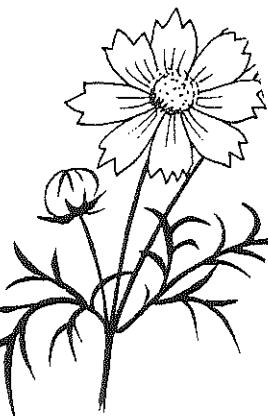


## 弘誓の船

「どんなに小さな石だつて、どんなに大きな石だつて、石というものを水に入れればみんな沈んでしまいます。」

ナーガセーナと名乗るお坊さんは、ミリンダ王にそのように答えました。「私は修行を積んだ。私は人格を磨いた。私の心は清らかだ。私の行いは、正しい。でも、所詮人間の（自分がわい争です。石それ自身のもつ罪業の重みで、必ず沈んでしまいます。生死の海のそこに浮かび出ることはできますまい。」「その大小の石が沈まらずに海に浮かぶ」とができるのは・・・」ミリンド王は耳をそばだてて聞き入りました。「そうです王様、船に乗せられるよりほかはありません」ナーガセーナは申します。「如來の眼力によつて、如來さまの仏力によつて、私のいのちがまる」と支えられ住持されることがないならば、石は、大でも小でも、絶対に迷いの海から浮かび出ることはできないのです。迷いの中であくまでも思えないから苦しいのだ。やはりあなたはほんとうに悲しむべき」とをわかつていなさい。私は私で悲しみ、あなたはあなたで悲しむ。そこには交わりがない。どいまでも孤独である。私はいつまでも私の悲しみを本当だと思い、何か目の前の道とは別の、特別な道をほんとうだと思って独りよがりに求め、結局世界を分断していった。あなたと私の奥底に横たわるほんとうの悲しみは互いに響き合い、「ああ、やつとこの苦しみをわかつてくれた」。そういうて安心して共に苦惱し共に生きられる場所を開く。その悲しみが開く広い世界は已に開かれている。

生死の苦海ほどりなし  
ひさしくしずめるわれらをば  
弥陀弘誓の船のみぞ



法語カレンダー十月（H.P.）より一部抜粋

## まどいの眼には見えたねども

### ほとけほつねに照一喜

大切な人の別れは苦しいものである。自分の力ではどうにも解決できない問題に直面する。それはときに私の足を竦ませ、「この苦しみは誰にもわかつてもらえない」という思いから孤独と绝望に沈み込む。私が医師として働き始め、患者さんは言った。「どうせ死ぬなら殺してほしい」。私は何かを言おうとしたが、言葉が出なかつた。「縁があり仏教を学ぶ機会をいただいた。そこで耳の底に留まる患者さんの言葉の意味に気がつかれる。たしかに病は治したい。しかし、その奥にさらに問い合わせがあった。その病によつてこれまで生きる依り所であつたことが崩れた。医療の現場での問い合わせを佛教にたずね、佛教の学びを現場で確かめたいと思った。そんなある日、「もう何もかもおわりにしたい」。そう語る難病の末期の患者さんに対して、おおよそのようなことを私は言った。「生まれてきてよかつたといえる道を見つけましょう」と。「道を見つけようとも思えないから苦しいのだ。やはりあなたはほんとうに悲しむべき」とをわかつていなさい。私は私で悲しみ、あなたはあなたで悲しむ。私たちの生命活動を二十四時間三百六十五日支えてくれていて、その自律神経（交感神経と副交感神経、適度な緊張と適度なリラックスタランスをいちばんよい状態で保つには、「今の自分をありのままに受け入れる」と）だそうですが、そういえば、阿弥陀さまも「あるがままの私」を救つて下さる。人を慕んだり、ねたんだりしなくとも、そのままのわたしこそ仏さまに願われるわたしなだと聞かせていただきました。あるが今までいいのです。（文責 坊守）

どすん

このコーナーを始めて、早くも数年が経ちました。知名度も上がり、「ご門徒の方から『いつも『どすん』を楽しみにしています」と、もつたい